

【研究主題】主体的に学びに向かう児童の育成

【副題】児童の主体的な学びを促す「ぎんなん子スタディ」の取組を通して

【学校・団体名】宮城県大崎市立古川第一小学校

【役職名・氏名】校長 大沼 博

I 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

急激に少子高齢化が進む中、持続可能な社会の担い手となる子供たち一人一人にとって、グローバル化や情報化等、社会の変化に伴う諸課題に対応しながら生き抜いていく力の育成が不可欠である。

令和3年の中央教育審議会から、『令和の「日本型学校教育」の構築を目指して—すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現—(答申)』が出され、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが重要であると示された。児童の資質・能力を育成するに当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直すとともに、さらに ICT を効果的に活用することで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを行っていく必要があると考える。

(2) 児童の実態

本校の児童は、明るく元気で素直な児童が多い。その一方で、主体的に学習に取り組む態度はあまり高くなく、令和4年4月に行った標準学力調査によるとどの学年も全国平均を下回った(図1)。

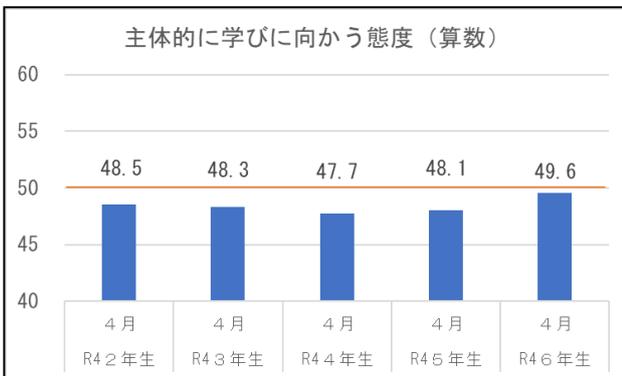


図1 令和4年度標準学力調査結果
全国平均を50としたときの本校の結果

また、児童の意識調査では、普段の授業において「もっと自分に合った速さで進んでほしいと思ったことはある。」と答えた割合が高かった(図2)。このことから、主体的に学びに向かう態度の育成に注力するとともに、

児童一人一人の異なる教育的ニーズに合わせた児童主体の授業の在り方を探る必要がある。

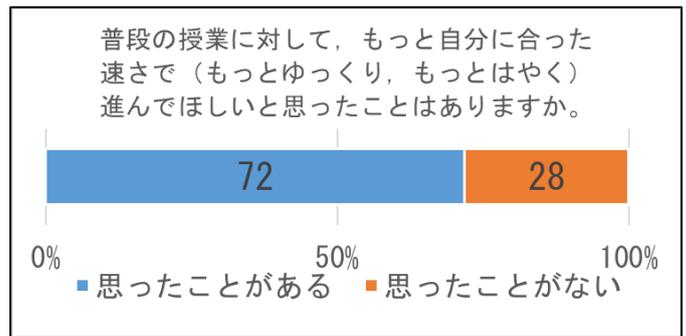


図2 令和4年度意識調査結果(5月実施)

II 研究の目標

主体的に学びに向かう学習指導の在り方を、ぎんなん子スタディの取組を通して明らかにする。

III 副題「ぎんなん子スタディ」とは

ぎんなん子スタディとは、「自分に合った学び方で勉強すること」である。授業や家庭学習、朝学習など、様々な場面を対象とし、児童が学習したノートや学習計画表、テストの記録等のスタディ・ログを活用しながらどんな方法で、誰と、どんな進め方で学ぶかなど、自分に合った学び方を選択したり、調整したりしながら主体的に取り組む学習である(図3)。

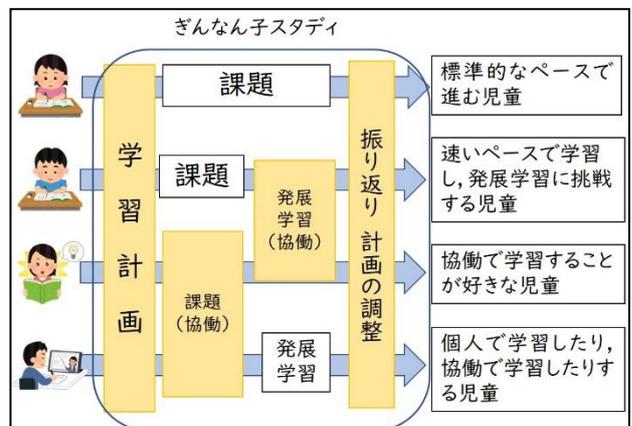


図3 ぎんなん子スタディのイメージ図

一人で課題を進めたり、協力したりする。また、学習のペースも調整して取り組んだりする。

ぎんなん子スタディを行う際は、教師が作成した学習の流れを示した学習の手引き(図4)を見ながら児童が学習計画表(図5)に計画を立てて学習する。単元全体の流れを知った上で、どのように学習するか計画する。

No	学習内容	めあて	教科書	ワークシート
1	学習内容を知り、学習計画表を作成する。	電気の性質や電気と私たちのくらしについて調べたいことを見付け。	P148~149	1
2	手回し発電機や光電池を使って電気を作り、作った電気を利用する。	手回し発電機や光電池で電気をつくり、作った電気を利用してみよう。	P150~152	2
3	コンデンサーに電気をため、ためた電気を利用する。	コンデンサーに電気をため、ためた電気を何に変えて利用できるか調べよう。	P153~154	3

図4 学習の手引き(例:第6学年 理科)
単元全体の学習内容を一覧にまとめている。

時間	学習計画	計画の見直し	振り返り ・学習のめあてのどのくらい達成できたか。・計画的に学習できたか。 ・良かったこと、悪かったこと、分かったこと。・新たな疑問。
1	①		ぎんスタの①の最初の部分をやり新しく発電と言う言葉を知りました。次回は発電の実験をし、自分たちで発電できるのか気になりました。 <i>先と見違えますね! うれしい!</i>
2	②	②	手回し発電をしその電気を利用してブザーを鳴らしたり豆電球を光らせることが出来ました。けど日光が雲に隠れ実験が出来なかったので③を進めながら日光が出たら②の実験を行いたいです。 <i>豆電球が光るのって結構いいですね! 雲に隠れると実験が出来ないのは残念です。</i>
3	③	後半 ③	光電池やコンデンサーで発電した電気を豆電球やブザーなどに利用することが出来ました。また発光ダイオードは豆電球より使う電力が小さいことが分かりました。 <i>実験を通して発見が面白いですね! 実験に思い詰めていました。</i>
4	④	④	新しく電熱線という言葉を知りました。電熱線に電気を流すと発泡スチロールなどを切れました。また豆電球と同じで電熱線に流す電気を多くすると熱くなるのか疑問に思いました。 <i>電熱線って何ですか?</i>

図5 学習計画表(例:第6学年 理科)
学習の手引きを基にどんなペースで学習するか計画を立て、授業の最後に振り返りを書く。

教師は、学習の方法や進む速さ、一人で学習するか、友達と協働して学習するかなど児童に選択させ自分に合った方法で学ぶことができるようにする。またGoogleworkspace やロイロノート等の学習アプリケーションを活用して、児童の学習の進捗状況や理解度等を把握し、必要に応じて個別に支援したり、全体で確認したりする(図6)。



図6 児童一人一人のワークシートを表示し、学習状況を把握

IV 研究の視点

以下の視点から、「主体的に学びに向かう児童」を育成する授業づくりを行っていく。

【視点1】 主体的に学習に取り組むための手立て

- ① 学習計画表の活用
- ② スタディ・ログの活用

【視点2】 考えを広げ深めるための手立て

- ① 学び合いの場の工夫
- ② 話し合いを活性化させる工夫

V 授業実践

(1) 単元名

かけ算(2)「九九をつくろう」(東京書籍)

(2) 単元の目標

乗法の意味について理解を深め、計算の意味や計算の仕方を考えたり乗法に関して成り立つ性質や決まりを見いだしたりする力を養う。

計算方法などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

(3) 授業の概要

導入から展開前半までを一斉授業で進め、新しい乗法九九の作り方を説明し合ったり、乗法の性質やきまりを使って九九の構成ができるかを話し合ったりする。展開後半を「覚える」「問題を解く」の学習を進める時間とし、児童一人一人が自分のペースで学習を進められる時間を設定する(図7)。

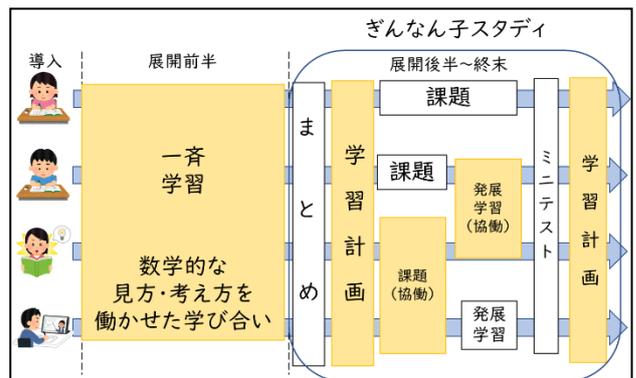


図7 本実践におけるぎんなん子スタディのイメージ図
45分間の授業を前後半に分け、後半に一人一人個別に学習を進めるぎんなん子スタディを行う。

学習計画表は、児童に身に付けさせたい学習事項が記されたものを示し、児童が次に取り組むべき学習事項を確認しながら自分で学習を進められるようにする(図8)。

かけ算(2)「学しゅうけいかくひょう」			分かったこと・気づいたこと・ふりかえり
1	6の だん	作る	アレイ図をつかって式をぜんぶ作る 6のだんなので、答えは口ずつふえる
		せつ明	6のだんの作り方をノートにせつ明を書く
2	6の だん	しらべる	6×4の答えは□×□の答えと同じ 6×5の答えは、□×□と□×□の答えをたした数
		おぼえる	九九カードでれんしゅう 友だちや先生に聞いてもらう
3	もん だい	もんだい	算数書30ページ1をやる 算数の力20をやる
			6のだんの「もんだい作り」をする

図8 実際に使用した学習計画表(ノート添付用)
ノートに貼り、いつでも学習内容を確認したり、振り返りを書いたりできるようにする。

(4) 視点に関する手立てと成果(○), 課題(●)

【視点1】 主体的に学習に取り組むための手立て

① 学習計画表の活用

- ・ 九九の各段の学習が終わる度に学習計画表(ノート添付用)に振り返りを行い、気付いたことや分かったことを記述させる。
- ・ 毎時間、学習計画表(スプレッドシート)に、学習の成果について自己評価させ、友達の進み具合を参考にして自らの学びを調整させる(図9)。

1	6の だん	作る	6のだんをぜんぶ作る	△	▽	○	▽	△	▽	△	▽
			6のだんなので、答えは口ずつふえる	○	▽	○	▽	○	▽	○	▽
2	6の だん	せつ明	6のだんの作り方をノートにせつ明を書く	○	▽	○	▽	○	▽	○	▽
		しらべる	6×4の答えは□×□の答えと同じ 6×5の答えは、□×□と□×□の答えをたした数	○	▽	○	▽	○	▽	○	▽
3	もん だい	おぼえる	九九カードでれんしゅう 友だちや先生に聞いてもらう	△	▽	△	▽	△	▽	△	▽
		もんだい	算数書30ページ1をやる 算数の力20をやる	▽	△	▽	△	▽	△	▽	△

図9 学習計画表(スプレッドシート)
自分の学習の自己評価を○～△で表し、学級全員の自己評価が表示される。児童や教師は自分の端末上で確認することができる。

- 主体的に個別最適な学びを進める上で、学習計画表は有効だった。2年生でも、自分で何に取り組むか学習計画表を見て考えながら進めることができた。
- 学習計画表(スプレッドシート)で友達の学習進捗を参考にして自分の学びを調整するところまでは、2年生では難しかった。実際には、「どこまで行った?」と友達に聞きに行っていた。
- ② スタディ・ログの活用
 - ・ 学習計画表(スプレッドシート)に自己評価させ、次時の個別の支援に生かす。
 - ・ 九九の段ごとにロイロノートで作成した「確認テスト」を実施し、児童の学習状況を把握する。

- 学習計画表(スプレッドシート)に自己評価させた結果を教師が把握し、次時の個別指導に生かすことができた。
- ロイロノートで「確認テスト」を実施したことで、理解度をすぐに把握することができた。間違いが多かった問題は、次時の始めに全体で復習したり、個別の支援に生かしたりすることができた。

【視点2】 考えを広げ深めるための手立て

① 学び合いの場の工夫

- ・ 習熟の場面では、児童に学習形態を選択できるようにする。
- ・ 学習計画表(スプレッドシート)で友達の学習進捗を参照させることで、学び合いの相手を選択する一助にする。
- 学習形態を自由に選択できるようにしたことで、分からない児童が友達に聞きに行ったり、分かっている児童が教えに行ったりする姿が多く見られた。また、友達の学習進捗を知ることで、自分の学習を調整する姿も見られた(図10)。



図10 友達と協力しながら学習の様子

- 学習計画表(スプレッドシート)で友達の学習進捗を参照する児童はほとんどいなかった。実際に、歩み寄った方が速かった。
- ② 話し合いを活性化させる工夫
 - ・ 自分の考えを書いたノートをロイロノート上で提出させ、それを拡大提示しながら、全体で児童の考えを共有する。
 - ・ 集団解決では、意図的な指名をしたり、友達の考えを他の友達に説明させたりする。
- 自分の考えをロイロノート上で提出させたことで、他の友達の考えを簡単に見ることができ、参考にすることができた。
- ロイロノート上で意見交換が済んでしまい、実際に友達のところに歩み寄って、意見交換をする姿が減ってしまった。

VI その他の授業実践

全学年、学級でぎんなん子スタディを実践した(表1)。児童の発達段階や実態を踏まえて学習計画表やワークシート等を作成し、児童が自分で学んだり学習を調整したりできるようにした。

学年	単元名
1年生	算数：10より大きい数 体育：ハードル
2年生	算数：どんな計算になるのかな
3年生	国語：想ぞうを広げて物語を書こう 国語：調べて書こう 私のレポート
4年生	国語：山場のある物語を書こう 体育：スポーツテストに向けて
5年生	社会：米づくりが盛んな地域 理科：花から実へ
6年生	国語：防災ポスターを作ろう 理科：電気と私たちの暮らし

表1 ぎんなん子スタディを実践した単元(例)

VII 研究のまとめ

(1) 成果

各学年で、ぎんなん子スタディの取組を行い、自分に合った学び方で学ぶことを実践してきた。令和5年4月に標準学力調査を行い、令和4年4月の結果と比較すると、主体的に学びに向かう態度が2年生、3年生、5年生において向上した(図11)。

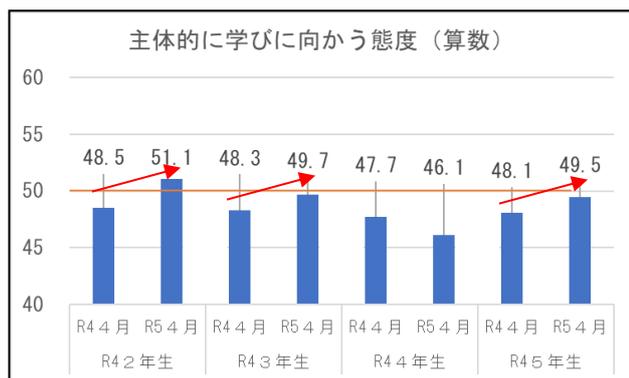


図11 令和4・5年度標準学力調査結果
全国平均を50とした数値を表し、令和4年4月と翌年4月の同一集団による比較

自ら学習を計画・調整するぎんなん子スタディの取組を通して、児童の一人一人に合った学びとなり、児童の主体的に学びに向かう態度が向上したと考えられる。また、思考・判断・表現のスコアについても調べてみると、主体的に学びに向かう態度と同様に、2年生、3年生、5年生が向上した(図12)。

主体的に学びに向かう態度が高まり、その結果副次的に思考・判断・表現も向上したのではないかと考えられる。

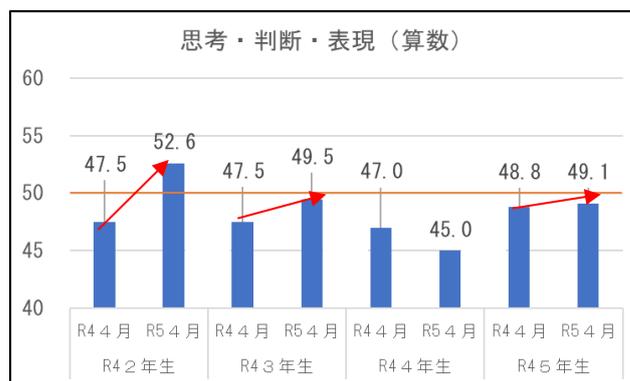


図12 令和4・5年度標準学力調査結果
全国平均を50とした数値を表し、令和4年4月と翌年4月の同一集団による比較

(2) 課題

4年生においては主体的に学びに向かう態度も思考・判断・表現も低下した。スモールステップで取り組めるよう、教材を工夫したり、習熟度別学習等で知識を確実に押さえたりすることで、個別に行うぎんなん子スタディをスムーズに行えるように支援する必要があるのではないかと。

VIII おわりに

本研究は、従来の一斉授業とは大きく異なる取組である。はじめは、教師も児童も戸惑う場面が多かった。児童は教師を頼り、教師は児童に学びを委ねることができず全体について指導してしまう。しかし、今では、児童が自ら学びを深めようと努力する姿が見られるようになった。これは本校が目指す、主体的に学びに向かう児童の姿に近付いていると考える。本研究は、3年計画の2年目である。最終年度に向け、さらに教材研究を行い、児童が主体的に学ぶためにはどうすればよいのか。児童がスタディ・ログを用いて自己調整するためにはどうすればよいのか。様々な実践を通して児童一人一人にとって個別最適な学びになるよう研究していきたい。